

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学校名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立生津小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立生津小学校	http://edu-mizuho.com/catfish/overall-research-concept/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立生津小学校	http://edu-mizuho.com/catfish/school-evaluation/	http://edu-mizuho.com/catfish/school-evaluation/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 一部、計画通り実施できていない
 ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 実施していない

<特記事項>

授業参観や公表会等で、実際の授業の姿を見ていただき、保護者や地域住民が、特別の教育課程による教育の成果を実感できるようにした。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例では、自分の考えや気持ちを伝え合うことのできる言語活動を仕組むことで、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指してきた。そして、児童が、興味をもってコミュニケーションを図ることのできる目的・場面・状況等を明確に設定したり、既習表現を活用することができる指導計画を工夫したりすることで、成果を上げることができた。

今後は、さらに、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとするための指導方法の工夫や、パフォーマンステストの在り方の改善により、指導と評価の一体化を進めていきたい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

生津小学校は、平成6年度に文部省指定の研究開発学校として、英語教育の実践を始めた。指定を終えてからも、校内研究の柱を英語として実践し、平成21年度からは、教育課程特例校として、第1～6学年において、「英語科」を実践してきた。児童は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていること、学校が設定する学年ごとの目標について、ほとんどの児童が概ね満足できる力を付けていること、保護者や地域の方から高い評価を得ていること等の成果が表れている。

英語教育の特色を生かした、コミュニケーション能力を伸ばす学校づくりは、望ましい人間関係を築く力につながり、学校の教育目標の具現に資するものである。

4. 課題の改善のための取組の方向性

授業のねらいに迫るためには、指導過程の中盤にある中間コメントの視点を明確にすることが大切である。また、タブレットの有効な活用方法等を今後も追究する。

児童がコミュニケーション活動に粘り強く取り組む姿の評価や、単元終末におけるパフォーマンステストの課題の設定と評価を工夫するなど、指導との一体化を図ることについて追究する。